

# 和白干潟を守る会

## 2008年度活動報告

2009.2.28 和白干潟を守る会事務局

活動方針 1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

### 1. 和白干潟自然観察会

2008年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2008年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間12回で、延べ593名の見学者のお世話をした。学校関係からの依頼では、保育園3回105名、小学校2回216名、中学校2回75名、高校2回88名、合計9回484名あった。その他に、団体や個人への和白干潟の観察会や案内が3回、延べ109名あった。他に学校などに観察会のビデオやDVDを貸し出した。

また守る会主催では、ラムサール企画の観察会「ハマボウを見る会」を7月に、第12期ガイド講習会を8月に開催し、延べ39名の参加があった。

### 2. 第12期 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、8月と12月の2回、第12期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催した。それぞれ25名と14名が参加した。

- ・8月31日 講師 熊本県立大学教授 堤 裕昭氏 テーマ「砂の干潟とは どんどころ？」
- ・12月7日 講師 (財)日本野鳥の会チーフレンジャー 永松愛子氏

テーマ 「海辺のカモをよ〜く見よう！」

### 3. 第20回和白干潟まつり

「和白干潟まつり」は多くの人たちに和白干潟に来て、その素晴らしさと危機にある現状を知り、自然環境を守ることの大切さを認識してもらう目的で毎年企画している。生協の協力を得て今年で20回目を迎えることが出来、約400名の参加があった。前日の雨風とは打って変わり11月30日は、お天気も穏やかで楽しい一日となった。イベントのスケジュールは一部変更になったが、子供さんの参加も多く、楽しんでもらった。ステージの前にイスを用意すれば、ゆっくり楽しんでもらえると思う。模擬店も新しい店が3店増え、賑やかになった。写真の展示の仕方も検討した。干潟の清掃にも大勢の参加があった。守る会はお揃いのブルーのバンダナを付けた。

### 4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質調査も実施した。年間12回、延べ279名が参加し、625袋のゴミを回収した。

定例のクリーン作戦の他に、ラブアースクリーンアップ参加やハマボウを見る会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ175名が参加し、233袋を回収した。全体では延べ454名が参加し、858袋のごみを回収した。粗大ゴミはタイヤ、ソファー、自転車、流木、毛布、布団など様々なものがあった。

- ・ 4月26日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・ 6月1日(日)は九州各県70ヶ所で行われる「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・ 7月19日(木)ハマボウを見る会では参加者全員で牧の鼻付近を清掃。
- ・ 9月27日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。  
<1年を振り返って>

ゴミの回収量は前年に比べて約4割減少している。アオサを除いたゴミの量は前年とほぼ同じであった。アオサは、2008年は和白干潟到達が遅く、10月上旬から沿岸に漂着し、ピークは11月下旬ころだった。量は前年より少なめだった。参加者数は昨年とあまり変わらないが、ホームページを見た大学生や一般の参加者が増えてきた。守る会の活動の認知度が上がってきていると思われる。クリーン作戦後の交流会での参加者の意見を取り入れ、最初に「クリーン作戦の後に自然観察がある」ことを説明するようにした。プログラムと掃除範囲地図を用意した。クリーン作戦ののぼりを作り、クリーン作戦当日に海の広場の入り口に立てて目印とした。

## 5. ラムサール条約登録をめざして

- ・ ラムサール COP10 にパネル参加 2008年10月25日から27日まで、韓国(チャンニョン・スンチョン)で「世界NGO湿地会議」が開催(ラムサール COP10の本会議10月28日～11月4日韓国チャンウォン市にて)され、和白干潟を守る会は2枚のパネルで参加した。
- ・ ハマボウを見る会(7/19)を実施 観察会案内チラシの裏面にラムサール条約を要約した内容を印刷し、和白や香住ヶ丘などに配布し、地域住民への理解を呼び掛けた。

活動方針2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

## 6. 調査

(1) 毎月1回、水質調査をした。

2008年の水質調査結果について

- ① リン酸値( $\text{PO}_4$ )が0.06を超えると富栄養化状態を表す。和白干潟では、例年夏場にはリン酸値が上がり富栄養化状態になる。2008年度は、5月から8月が0.06をオーバーしていたが、これは例年並みの状態である。
- ② 亜硝酸値( $\text{NO}_2$ )は海水の汚染度を表す。和白干潟海水の2008年度亜硝酸値は、0.02～0.1の間にあり、「やや汚染がある」状態であるが、これは例年並みである。
- ③ 化学的酸素消費量(COD)は毎年夏場には悪化する傾向にある。2008年度も5月～7月、及び9月には5を上回ったが、例年このような状態である。

(2) ゴミ内容調査をした。(国際ビーチクリーンアップ)(9月)

(3) 鳥類調査では以下の調査に協力した。

- ・ 1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB国際水禽湿地調査局)
- ・ 1～2月、12月 環境省モニタリングサイト1000冬期シギ・チドリ調査(今津と博多湾東部)(環境省・WWFJ・NPO法人バードリサーチ)(3回実施)
- ・ 4月～5月 環境省モニタリングサイト1000春期シギ・チドリ調査(今津と博多湾東部)(環境省・NPO法人バードリサーチ)(3回実施)
- ・ 8月～9月環境省モニタリングサイト1000秋期シギ・チドリ調査

(今津と博多湾東部) (環境省・NPO 法人バードリサーチ) (3回実施)

2008年度の鳥類調査参加者は、毎回9名から15名、延べ102名が参加した。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

※和白干潟のアシ原で火事があった(消失面積100mx200m)(2月)

※ミヤコドリ1羽和白干潟に飛来観察 10/4 ・ミヤコドリ2羽飛来観察 10/8・ミヤコドリ4羽飛来観察 11/17

**活動方針3.** 悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島計画の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。

## 7. 行政などへの働きかけと表彰

### (1) 和白干潟保全条例について検討

福岡市出前講座(福岡市環境基本条例について) 環境局環境計画課2名 守る会7名(1月)和白干潟保全条例についての会議(10・11・12月)を開催。条例案項目を通信に「干潟のつぶやき」として掲載することにした(2009年1月発行の89号より掲載)

### (2) 「平成19年度第2回アイランドシティ整備事業環境モニタリング委員会」3名傍聴。1/12

### (3) エコパークゾーン等水域利用検討委員会に参加(事務局:港湾局管理課)

- ・エコパークゾーン等水域利用検討委員会出席(山本)(1/17、3/26)
- ・「エコパークゾーン水域利用連絡会議」委員の推薦書と同意書を書き送付 5/10
- ・平成20年度エコパークゾーン水域利用連絡会議出席(山本)第1回 5/26 第2回 10/28
- ・エコパークゾーン水域利用連絡会議による博多湾の海上安全指導パトロール参加(山本) 小型船舶3艇、13名参加(委員と海上保安官)

### (4) 環境省福岡事務所の河野さんに国指定和白干潟鳥獣保護区特別保護地区の要望を伝えた。

### (5) 水産庁の「里海に関するアンケート」の回答済み分を送付。2/27

### (6) 東区役所「まちかど文化ひろば」に「和白干潟紹介」(区役所企画課制作) 掲示 7/14~7/31

### (7) 塩浜護岸の自然案内板の原稿作成 9月~

### (8) 応募事項

- ・2月に「にほんの里100選」に和白干潟で応募する。12/12(金)「森林文化協会」から「日本の里100選」に和白干潟が有力候補と連絡を受ける。12/24(水)和白干潟が「にほんの里100選」に内定の連絡が「森林文化協会」からあった。(09/1/6朝日新聞「にほんの里100選」に選定され掲載された)
- ・第6回北九州市環境賞応募(6月)・朝日新聞社第10回明日への環境賞の応募(9月)
- ・日本河川協会第11回日本水大賞に応募(11月)

## 8. 和白干潟通信・パンフレット類

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回(No. 85~88、各4600~4700部)発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき2回の編集会議を開いて作成した(編集委員は約8名)。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・唐の原・香住丘・御島崎・香椎・照葉の家庭に配布した。7月ハマボウを見る会の案内チラシを香住ヶ丘の家庭に配布した。東区役所と東市民センターと「コミセンわじろ」などに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターを毎月掲示してもらい、和白干潟通信も常時置いてもらっている。東区内の公民館、和白丘の亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、ハローデイ、臨海リサイクルプラザ、パタゴニア福岡店、天神のギャラリー「風」などにも和白干潟のパンフレットや通信を置いてもらっている。

## 9. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

年間を通じ、会の行事予定や活動報告、和白干潟の生物などに関する情報を随時更新し、発信している。四季にわけて、生き物、植物、野鳥の写真や、観察会の様子など充実させている。協力者を募っている。2008年6月より新アドレスを開設、9月までは前のアドレスと並行し、10月より新アドレスのみの運営に移行した。通信発送封筒やパンフレットのホームページアドレス訂正シール作りとシール貼りをした。ホームページのカウンターを修正した。

## 10. その他の広報活動

### (1) 20周年記念企画開催

5/17(土) 20周年記念「きりえで作ろう和白干潟」9名参加 講師：くすだひろこ  
朝日新聞に事前掲載。読売新聞「かわらばん」に事後掲載。

### (2) 「和白干潟」の曲が出来た(作詞：くすだひろこ 作曲：岡本桂香)

「照葉まちづくり協会」で「九州青年合唱団」の岡本桂香さんが照葉小中学校で「和白干潟」を歌った。干潟まつりでも「九州青年合唱団」が披露。

### (3) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」とは、イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日を「イオンデー」として、その日に買い物したときに受け取る黄色いレシートを応援したい団体のボックスに投じると、その1%相当額の商品がイオンから団体に寄贈されるという仕組み。イオン香椎浜店内の「ジャスコ」(1階・食料品売り場、2階・衣料品売り場)と和白の「ホームワイド」のレシートが有効。(現在29団体) 期間は毎年3月11日から翌年2月11日。「和白干潟を守る会」は2008年3月から登録された。2008年3月から2009年2月までの「成果」は、19115円(守る会のボックスに入れられたレシートの金額の1%)あった。

### (4) 講演等

- ・5/31(金)香椎保育所保護者と職員37名の研修会にて和白干潟の環境教育の講演
- ・7/8(火)福岡中学1年生205名と先生10名に和白干潟の講演

### (5) 情報の発信…新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信

下記各社や団体、機関に会の活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信した。

毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、NHK福岡放送局、NACS-J「自然保護」誌・パタゴニア福岡店・西鉄高速バス社内誌EP(イベントペーパー)・野鳥誌・西日本新聞特集「エコ・スイッチ」・大学生用環境問題のテキスト作成(後藤長崎大名誉教授)・情報誌「ぐらんざ」・グリーンコープ機関紙「共生の時代」・福岡コダエイ芸術教育研究所通信・東区役所「まちかど文化ひろば」掲示(区役所企画課制作)・ボート倶楽部「海を守る人々」連載100回記念特集号・「三井住友海上火災保険株式会社地球環境・社会貢献室」・福岡女学院看護大学・福岡市環境局(小学校5年生社会科副読本「わたしたちのまちの環境」に紹介)など。

### (6) 取材協力…新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力

- ・NHKTV、「九州ウオーカー」、西日本新聞、TNCTV、和白ヶ丘中学校放送部、「どこでもテレビ」、放送大学、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞などの取材に協力した。

## 11. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- ① 和白海岸定例探鳥会(野鳥の会福岡支部)に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。
- ② 和白干潟保全のつどい(構成団体：福岡市港湾局環境対策課、和白干潟を守る会、ウェットランド

フォーラム、九州環境管理協会、その他) 2006年4月より毎月1回開催。

2008年内容

・アサリ看板設置作業(1月)・和白干潟の満潮時の生き物観察(8月)・ハマボウの生育状況を報告した。(10月)・アオサ回収イベント。「つどい」の性格の再確認や、「つどい」の運営方法の検討を要望(11月)・「渡り鳥が集う和白干潟」看板を海の広場、和白川、五丁川に設置(12月)

### ③ その他

- ・「干潟・湿地を守る日2008」申込(1月)
- ・「2008 シャボン玉フォーラム in ふくおか」賛同団体申込(1月)
- ・平成20年版「環境NGO総覧」調査票送信(1月)
- ・WWF サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」から来訪、干潟を案内(5月)
- ・北海道の藤女子大学の方と北九州インタープリテーション研究会の方に和白干潟案内(9月)
- ・「博多湾の水環境」講演会参加(5月)
- ・シンポジウム「ラムサール条約登録をめざして」参加
- ・地域づくりネットワーク福岡県協議会の加入申請提出(12月)
- ・「海の中道海浜公園」のカモ池と博多湾側海域の鳥類調査に協力(毎月1回、約4名参加)

\*\*\*\*\* 「和白干潟を守る会」運営に関して \*\*\*\*\*

## 12. 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回12~19名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

## 13. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈した。

また、他団体の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

## 14. 助成

福岡市環境市民ファンドの「エコ発する事業」として、2008年4月から2009年3月まで(1年間)、和白干潟の保全と環境教育活動のために475,491円の助成を受けた。

## 15. 寄付・寄贈

- (1) 安部直哉著、山と溪谷社刊「野鳥の名前」図鑑を寄贈された。(10月)
- (2) 「和白干潟」の歌を九州青年合唱団の岡本さんが作曲してくださる(11月)
- (3) 会員や一般市民から、会費納入、観察会、干潟まつり、望年会オークション等の折にカンパを受けた。
- (4) 後藤さんから冬用スリッパ16足寄付があった。(12月)

## 16. その他

- ・親睦を兼ね興山園花見登山をした。10名参加(4月)
- ・NPO法人化について検討する。(1月~10月) 今後も継続して検討することにする。
- ・駐車場の草取りをした。(10月)
- ・「守る会20年の歩み」について10月11月12月の3回、会議を持った。
- ・望年会 15名参加、大掃除 11名参加。(12月)